

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立桑名北高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		生徒と共に創る教育活動をととして、地域に信頼される北高
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	ア 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生 イ 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生 ウ 以下に示す「7つの力」を身に付けた北高生 ①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力 ⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力
	ありたい教職員の姿	①「主体的・対話的で深い学び」を心がけ、授業改善に熱心に取り組む教職員 ② 夢や希望する進路が保障できるよう、様々なデータの分析結果を共有し、「キャリア教育」に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		① 生徒 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業と、「朝の学習の時間」等の取組により、学力が身につけていることを実感し、充実した高校生活を送ることができる。 ② 保護者(各家庭、PTA) 安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、希望する進路が実現できるよう、学習活動やキャリア教育が充実している。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	① 保護者 ○ 安全・安心な学校 ○ 学力向上・進路保障が実現できる学校		① 保護者 ○ 教育活動への参画、家庭教育の充実 ○ 親子の豊かなコミュニケーション
	② 地域住民(自治会) ○ 地域の青少年の模範となる生徒 ○ ボランティア活動、防災等での地域連携		② 地域住民(自治会) ○ 学校教育活動への理解と連携
	③ 中学校 ○ 学力・体力の向上、部活動の充実 ○ 進路の保障 ○ 多様な生徒への対応		③ 中学校 ○ 緊密な中高の連携と相互理解 ○ 本校の特色や取組の中学生への紹介
	④ 事業所、NPO ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着 ○ 忍耐力の育成		④ 事業所、NPO ○ キャリア教育充実のための連携強化(例:インターンシップ) ○ 求人数の増加

(3)前年度の学校関係者評価など		【学習の取組】 朝学の取組を続けてきたことはすばらしい。朝学は成功しにくいことが多いが、今後も継続して実践していったほしい。 【スマートフォンの取扱】 スマホ依存症について、スマホが気になって学校生活に集中できないことがあり、子どもたちの間だけでなく社会全体の問題となっている。「7つの力」プラスαでスマホをコントロールできる力をつけていく取組が必要に感じる。 【規範意識の醸成】 社会生活ではルールを守らないことが自分の不利益となることから、生徒が将来、社会に出て困らないために生徒自身がルールを守る意義を持てるような指導をお願いしたい。 【地域との連携】 生徒の登下校において、地域住民に対する迷惑行為等がみられたが、下校指導の実施により、少しずつ効果が出てきている。引き続き生徒の指導をしていただくとともに、夏祭りなど地域との交流を進める機会を増やし、活気ある街づくりに貢献してもらいたい。 【遅刻や身だしなみの指導】 遅刻や身だしなみは学校だけでなく、家庭での躾も必要である。引き続き学校と家庭が連携して取り組んでもらいたい。
(4)現状と課題	教育活動	① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストをとおして、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに、就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、北高生として責任ある行動がどの場でも取れるよう、マナーや約束を守る指導をさらに徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安全・安心に過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。
	学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 校務の精選や、SSS等・支援員の活用等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	ア 「自律・誠実・協働」の心を持った生徒を育む教育活動の推進 イ 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進 ウ 人と人とのつながりの大切さを学べるよう、自他の理解、人間関係形成能力、コミュニケーション能力の育成を目指した学習活動を推進 ①【学力の定着と向上】 「桑北スタンダード」の「活用」による「7つの力」の育成。 ②【キャリア教育の推進】 好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映。 ③【生活習慣の確立】 丁寧で粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着。生徒の参画による活動推進。 ④【安全・安心の学校づくり】 安全教育の推進と感染症予防対策、危機管理体制の強化。
学校運営等	①【円滑で戦略的な組織運営】 必要な会議の精選と日常的な情報共有の確保、本校の実情に合った教育課程の実施。 ②【信頼の確保と指導力の向上】 日々の研鑽や研修を通したコンプライアンス意識の向上、指導力の向上の取組。 ③【開かれた学校づくりの推進】 学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発。 ④【働き方改革の実効性の向上】 計画的な業務の進捗管理と業務の精選の徹底。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	ア 規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 イ 大学進学など、明確な進路意識を持って学業に取り組める生徒 ウ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 学力の 定着と 向上	【1学年】 ① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 【活標】 ① 基礎力診断テストや実力診断テスト、朝学を通して基礎学力の定着を図る。また、考査期間中に考査前勉強を実施する。放課後30分程度、全員で勉強をする時間を確保し、考査に向けて万全の準備ができるようサポートしていく。 ② 各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。	【1学年】 ①第1回 A 評価者 0名 D3 評価者 79名 学年評価 D2- 第2回 A 評価者 0名 D3 評価者 75名 学年評価 D2- 第3回 A 評価者 0名 D3 評価者 56名	※

	【成標】 ① 基礎力診断テストの評価で D3の人数を 20 人以下、A 評価者を 3 人以上、学年評価 C 以上。 ② 学力上位層や進学希望者をピックアップし、次年度カレッジクラス希望者を 40 名確保。 【2学年】 ① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 ③ コミュニケーション能力の向上 【活標】 ① 授業、基礎力診断テスト(全 3 回)、朝学(毎日)を通して各コースに応じた学力の定着を目指し、取り組む。 ② カレッジクラスにおいて、校外模試(年 4 回)を推奨する。また、課外授業(学期毎)を行い、進学に向けて必要な学力をつける。 ③ 社会で的確に伝えあうための語彙力、多様な社会を読み解くための聴解・読解力、社会に主体的に向き合うための理解力を身につける。 【成標】 ① 基礎力診断テストの評価で D3 の人数を 35人以下、学年評価 C 以上。 ② 基礎力診断テストの評価 A ゾーン3名以上、B ゾーン5名以上。実力診断テスト3教科 200 点以上を3名以上。 ③ 論理言語力検定 LITERAS3 級の取得人数を 100 人以上。 【3学年】 ① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 【活標】	学年評価 D2- 目標達成することはできなかった。しかし、回を追うごとに D3評価者の数は減り、B 評価者の数は増えていった。毎日の朝学や考査前勉強会、D3 学習会を通じて、徐々に基礎学力は定着している。取り組む内容を精査して、次年度も引き続きサポートしていく。 ②カレッジクラス希望者 37名。定員を充足することができた。 【2学年】 第1回 A 評価者 国数英 0名 国語 1 名 数学 0 名 英語 1 名 D3評価者 55 名 学年評価 D2- 第2回 A 評価者 国数英 1 名 国語 1 名 数学 2 名 英語 1 名 D3 評価者 40 名 学年評価 D2+ 第 3 回 A 評価者 国数英 0 名 国語 2 名 数学 0 名 英語 0 名 D3 評価者 42 名 学年評価 D2- ① 第 1 回、第 2 回、第 3 回ともに未達成 ②第1回 A ゾーン 0名未達成 B ゾーン 2 名達成 第2回 A ゾーン 1 名達成 B ゾーン 5名達成 第 3 回 A ゾーン 0 名未達成 B ゾーン 3 名達成 実力診断テスト200点以上 第 1 回、第 2 回ともに未達成 ③今後実施予定。 【3学年】 第1回 A 評価者 国数英 1 名 国語 5 名 数学 2 名 英語 1 名	
--	---	--	--

① 基礎力診断テストや授業、朝学を通して基礎学力の定着を図る。朝学で継続的に一般常識ワーク等に取り組むことで進学・就職に向けた準備をする。 ② 校外模試の受験や課外授業の受講を促し、自身の学力の定着度や勉学への意欲を高めていく。カレッジクラスは発展課題や追加課題を準備し、受験の対策をする。 【成標】 ① 基礎力診断テストの評価で D3 の人数を 30 人以下、学年評価 C 以上。 ② 基礎力診断テストの評価 A ゾーン 5 名以上、B ゾーン 15 名以上。 【教務総務部】 ① 生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。 【活標】 授業において、可能な限りペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。 【成標】 生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答:70%以上 ② わかる授業を実現する。 【活標】 ICT の活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。 【成標】 生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答:80%以上。 【進路指導部】 ① 基礎力診断テストを元にした学力把握と学力伸長 ② 課外授業の企画と進路実現に向けたサポート 【活標】 ① 受験各回のGTZ(=学習到達ゾーン)D1以上 ② 全学年に課外授業の企画 【成標】	D3 評価者 57 名 学年評価 D2+ ①D3 の人数、学年評価ともに未達成となったが、朝学の時間を有効に使い、学習に向かう環境を継続して整えることができた。 ②A ゾーン 1 名 未達成 B ゾーン 6 名 未達成 【教務総務部】 ① 生徒の実態調査アンケートより ・「あなたの教科担当の先生は、授業で考える時間や相談できる時間を設けていますか？」⇒92.8% ・「あなたは、ペアワーク・グループワークに参加できていますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」82.0%⇒達成 ・「あなたは、ペアワーク・グループワークを通して、学力が身についたと思いますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」74.6%⇒達成 ②同アンケートより ・「桑名北高校の先生は、わかりやすい授業のための工夫をしていると思いますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」94.6%⇒達成 ・「あなたは、桑名北高校で授業を受けて『わかる！』が増えたと感じていますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」87.9%⇒達成 【進路指導部】 ① について → 未達成 学力に困り感を抱える生徒が増加し、前年よりも目標値を下げたが、それでも実現できなかった。 ② について	
---	---	--

① 受験各回のGTZ30%以下 ② 課外授業ののべ参加者数70人以上 ≪各教科の目標≫ 「桑北スタンダード」を活用した授業を行う。 【国語】 ・語彙力養成から文章読解まで幅広いニーズに応じた授業を展開する。 ・場面や状況に応じた適切な会話ができる能力の育成を目指す。 【地理歴史・公民】 ・生徒の考える力を育むことを目標とする。そのために、生徒が主体的に取り組む発問やワークを、全ての科目で1コマにつき1回取り入れて、教師主体の授業とならないよう授業の進め方に留意する。生徒がICT機器を活用して主体的に学ぶことが出来るような授業の組み立てを行っている。 ・発想を広げたり、相手を尊重する気持ちを育むために、お互いの考えを共有しあう機会を設けたり、グループワークやペアワークを取り入れたりして、多様な考えに触れる機会を設ける。 【数学】 ・ペアワーク・グループワーク等の共同学習を通じて、桑名北高校7つの力を養える授業展開を行う。 ・週末課題や小テストなどを通じて、既習の学習内容のより深い定着を目指す。 ・自分で単元ごとに自分で決めた取組目標を設定し、その進捗を確認(振り返り)することで生徒の主体性を高め、学習内容の定着を図る。 ・さらなるICT機器を活用した授業の組み立てを行い、教員一人ひとりが研鑽を重ね、実践し、生徒が主体的に、より深い学習ができることを目指す。	→ 達成 進学課外のみならず、就職課外、小論文添削など幅広いニーズに対応した。 【国語】 ICT 端末を使用した調べ学習や意見発表を定着させ、主体的に学び合う機会を増やした。手書きで自分の考えを文章にまとめる機会も持ちつつ、ICTの良さも取り入れて「考える力」「読み取る力」「書く力」等を養うことができた。 漢字検定を年2回実施した。 【地理歴史・公民】 ・生徒が主体的に取り組む発問やワークを、全ての科目で1コマにつき1回取り入れた。また、Chromebookを活用し、Google フォームで、発問に対する回答を集約して、多くの生徒が自分の意見を出しやすい環境づくりをした。 ・授業ごとに、ペアやグループで考えさせる機会を設け、積極的な交流の場を持たせることができた。 【数学】 ・各授業において、教員一方向の授業にならないよう心がけ、仲間同士での相談、意見の共有時間を設けることができた。 ・1年生・2年生においては週末課題を実施し、既習内容の定着をはかることができた。全学年のチャレンジクラスでは小テストを活用して既習内容の定着をはかり、定期テストにつなげることができた。昨年度より小テストの回数も増やし、より学力の定着に結びついたと思う。 ・単元ごとに生徒自身が目標設定をすることにより授業に計画的に前向きに取り組むことができた。 ・教科内で授業見学や意見交換を行うことによりお互いの授業力向
--	--

	【理科】 可能な限り、実物の資料やICTを使用し、生徒がイメージしやすい授業を心がける。仲間とともに課題や実験に取り組み、協力して課題を解決する力を養う。 【保健体育】 ・体育と保健の関連性を意識しながら、生涯を通して健康に生きるための知識、見方、考え方を学ばせる。・個々の課題に対して、ICT の使用やペア活動・グループ活動を通して、他者と関わり合いながら協力して解決する力を養う。 【芸術】 ・ペアワークやグループワークを取り入れ、他者の表現を理解し、多様な価値観を共有できる力を養う。 ・ICT を活用した創作活動や鑑賞活動を取り入れることで、現代社会における芸術の多様性を学ぶ。 【英語】 ・英語を「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能をバランスよく学習できるような授業とする。基礎的な内容を繰り返し指導し学力の定着を図るとともに、学習の仕方を身につけ主体的な学習に結びつくよう指導する。 ・また、ICT を活用し、英語でのプレゼン等を通し、発信する力を養う。	上につながった。Chromebook を用いたレポートの実施を一部行ったが、昨年度と比べると授業実践が行えていないことが今後の課題である。 【理科】 実験で実物を用いたり、映像やアニメーションを提示したりすることで、生徒とイメージを共有することができた。また、実験における班学習や授業内でのグループワークを取り入れることで、協力して課題に取り組む力を養うことができた。 【保健体育】 ・授業の際に Chromebook を活用し動画の撮影や調べ学習を通して、知識の習得はもちろん、見方・考え方を深めることができた。グループ活動・ペア活動の際に Chromebook を使用し、技能習得の段階を撮影、確認することで技能向上にむけて意見を交換することができた。 【芸術】 ・作品制作や鑑賞活動の中にペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、互いの作品の良さや表現意図を伝え合う場面を設けた。これにより、生徒は他者の表現を理解し、多様な価値観に触れながら学び合う姿勢を育むことができた。 ・Chromebook を活用し、作品の共有や鑑賞活動、デジタルソフトを用いた創作活動などを行い、生徒は互いに学び合いながら創造力を高め、幅広い視点で芸術を捉える力を身につけることができた。 【英語】 ・基礎の定着に重きを置き、教科書の精読やリスニング、パフォーマンステストを通して、「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能を意識した授業を心掛けることができた。	
--	---	---	--

	・Googleスライドを用いたプレゼンを英語で行うなど、ICTを活用しながら発信する力を高めた。 【家庭】 ・実習や調べ学習、グループ活動などを通して、聞く態度や伝える力を養い、協働する力を育成する。 ・ICT を活用し、視覚から生徒の興味や理解につなげたり、各自の進度にあった内容を確認させたりすることで、知識・技術の習得につなげる。また、習得した知識や技術を活かして、自分の生活をより良くする力を身につけることを目指す。 【情報】 ・直面する課題や目的に適した情報手段を主体的に選ぶことができるように、様々な手段を学び、問題解決や目的達成のために情報や情報手段を適切に活用する能力を育む。 ・実習などを通して実際に体験させ、経験を積み重ねることで得られる結果を自ら評価し、改善を図る。 ・情報の発信先、伝達先には必ずその情報をみる人がいることを意識して、発信先、伝達先にとって分かりやすかつ不快な思いをさせないような情報の発信・伝達ができる能力・態度を養う。 【商業】 ・簿記については、ビジネスに関する実務との関連性を認識させる。プロジェクトを活用し、授業の効率化を図る。 ・情報処理については、情報を収集・処理・分析し表現する一連の諸活動において情報を活用する能力・態度を養う。書画カメラを活用し、授業の効率化を図る。 【ヒューマン】(学校設定教科) ・コミュニケーションワーク・保育園児との継続的交流を通して、自他への理解を深め、粘り強く人と関わる力を育てる。 ・ふりかえりによる気づきの明確化と定着、学びの共有を図る。	・Googleスライドを用いたプレゼンを英語で行うなど、ICTを活用しながら発信する力を高めた。 【家庭】 ・グループ活動の機会を多く設けたことで、伝える力や聞く力を伸ばすだけでなく、互いの考えを尊重しながら協働して課題を解決する姿勢をおおむね育むことができた。 ・動画を活用して実技内容を分かりやすく示し、知識や技術の習得につなげることができた。今後は学んだ知識や技術を生活の質の向上に活かす力を高めていきたい。 【情報】 直面する課題や目的、社会に出たときに活用できる技能など、それに適した情報手段が選択できるよういろいろな能力をはぐくむことが出来た。また、Chomebook の活用などで、個々にあった速度で、予習、復習できるように行った。 【商業】 ・プロジェクトを使用することで板書の時間が短縮でき、効率的に授業が行えた。 ・情報を活用する能力・態度を養うことができた。書画カメラの活用で、授業の効率化を図れた。 【ヒューマン】(学校設定教科) 生徒は園児と交流を重ねるなかで、真摯に相手に向き合い、関係を構築していくことができた。また、交流の気づきを明確にし、他者との共有を経て学びが深まるよう、毎回振り返りシートを書き、次回までに意見を集約し、共有することができた。このように振り返りを丁寧に繰り返すことが、行動の変容へと繋がっていった。	
--	---	---	--

重点② キャリア教育の推進	【1学年】 7つの力を意識したキャリア教育 【活標】 「みらい」の授業ごとに自分に身についた力を振り返り、ふりかえりシートで積み上げていく。インターンシップと探究を連動させ、職業観や自身の将来の展望について自分なりに考えが出せるようにする。 【成標】 各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、7つの力の中から3つピックアップ。また、自身の進路実現などに絡めて、身につけた力が活用できるか、または他の力も必要なのか、自身の将来に生かせるよう考えられる。 【2学年】 ① 進路選択に合わせたキャリア教育 ② 防災を切り口とした「生きる力」の育成 【活標】 ① 総合的な探究の時間(みらい)に自分が目指す進路に向けて自己分析ができる教材や情報を提供する。 ② 「探究」の活動で防災をテーマに年12回のメニューを組み、発表(ポスターセッション)する。 【成標】 ① 自分に合った職種や仕事を知るために外部サイトを使用して調べ学習の機会を設けたり、セミナーや説明会を活用し、企業や上級学校の方と接点を設けたりすることで、より具体的に自分の進路をイメージできる機会を作る。 ② 防災について必要な知識を身につけ、修学旅行(東北)での経験を活かしながら、地域とともに連携し、災害を自分事として捉える。各自が能動的に取り組み、周囲と関わり合いながら、自助、共助、公助の視点を育む。 【3学年】 ① 進路実現 ② 社会との接続 【活標】 ① 進路説明会、みらいセミナー、面接練習等の進路行事と連動しながら進路実現に向けた学年の気運を高めていく。特にカレッジクラスの進学対応に関して、面接練習など学年全体でサポートしていく。 ② 社会との接続を意識した「みらい」での行事・各種セミナーを通して、今後のキャリアイメージをもったうえで卒業させる。	【1 学年】 アンケートの「自分の力が伸びたと感じるもの」で、3 つ以上選択した者が 1 割程度、複数(2つ以上)選択者が3 割程度であった。また、「これからさらに頑張りたいと感じるもの」の複数(2つ以上)選択者が6 割を超えており、今年度大きく成長を感じられた者は少なかったが、自身の成長に向けて一層の努力が必要だと自己分析がしっかりできている者が多かった。 今後も生徒が成長を実感できるような「みらい」の取り組みを実践していきたい。 【2 学年】 ① みらいセミナーや分野別見学会、Handy 進路指導室の活用を通して、進路について考える機会を確保できた。 ②事前に1年の流れを計画し、準備し学ぶことで深い学びにつながっている。修学旅行も活用し、災害を身近なものとして、自分事として捉える意識が醸成しつつある。 「学びの流れ」 1. 南海トラフを想定した学び 2. 修学旅行の事前学習 3. 修学旅行で東日本大震災についての学び・体験 4. HUG(避難所運営)セミナーでPTA、地域とともに学ぶ 5. 1年間の学びをポスターセッションにて発表 6. 優秀作品はイオン桑名にて掲示予定 【3 学年】 ①就職・進学ともに、1校目1社目で内定をいただく生徒がほとんどであった。 進路未決定者が2 名おり、進路実現に向けて学年団・進路指導で連携し、サポートしている。 ②151名が卒業予定で目標は未達成。3名は進路変更。 欠席が多い生徒や成績が低い生徒に対して、提出物の確認や日
---------------------------------	---	--

	【成標】 ① 進路決定100%。 ② 今年度3学年154名全員卒業。 【生徒指導部】 ① 挨拶が行き交う学校づくりを行う。 【活標】 朝の挨拶運動や校内での積極的な声かけを通して、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答が90%以上。 ② 身だしなみ・頭髪の指導を行う。 【活標】 各学期実施の「頭髪服装指導」と朝の昇降口指導を基本とし、必要な生徒には期日までの改善を指示する。 【成標】 頭髪服装の期日内改善不十分が全体の5%以下。 【進路指導部】 ① 低学年時からのキャリア形成 ② 各学年との連携 ③ デジタルツールの利用促進 【活標】 ① 総合的な探究の時間「みらい」の計画運用 ② みらい担当者会議の実施 ③ GoogleClassroom、Handy 進路指導室の効果的な運用 【成標】 ① 年度末の生徒満足度アンケート90%以上 前年度卒業生の1年以内の早期離職15%以下 ② みらい担当者会議15回 ③ 各種アンケートや求人一覧表、応募前職場見学日程の配信	頃からの声掛け、保護者連絡などを頻繁に行うことで、学校・家庭が連携してサポートする体制を形成・維持することができた。 【生徒指導部】 ①「挨拶ができた」の回答が91%であり、目標を達成できた。引き続き、挨拶のしやすい雰囲気をくついでいきたい。 ②各学期及び行事前に実施した「頭髪・服装指導」にて、再指導となった生徒の内、は期日内に改善が十分にできなかった者は2%で目標は達成できた。しかし、そもそも頭髪の加工をする生徒は増加傾向にあるため、言われたら直せばよいという感覚にならないよう指導したい。 【進路指導部】 ① について → ほぼ達成 学年と調整しながら実施 ② について → 達成 ③ について → 達成 職場見学や各種アンケート等について効果的に運用	
重点③ 生活習慣の確立	【1学年】 ① 遅刻数の減少 ② 欠席数の減少 ③ 整理整頓 【活標】 ① 時間を守ることの大切さを教える。また、事前の準備や確認ができる環境を整えていく。 ② 規則正しい生活や食生活などの重要性を伝え、さらに家庭と連携しながら、子ども達を学校だけでなく各家庭でもサポートし、心身の健康の維持に努める。 ③ 授業や放課後などで、各教室の机上や個人ロッカーの周辺など、荷物や授業関係の物が整理整頓できるよう声か	【1学年】 ①遅刻者数(遅刻率) 1学期 昨年度 385人 (3.5%) 今年度188人 (1.7%) 2学期 昨年度 398人 (3.5%) 今年度 414人 (3.4%) 前年度に比べ減少している。日頃からの生徒・保護者への声掛けが成果につながった。	※

	けをしていく。 【成標】 ① 学年遅刻数の昨年度比減。 ② 学年欠席数の昨年度比減。 ③ 放課後に荷物の置き忘れやしまい忘れゼロを目指す。 【2学年】 ① 遅刻・欠席数の減少 ② 身だしなみを整える ③ 挨拶と正しい言葉遣いができる。 【活標】 ① 遅刻・欠席生徒と対話し、家庭とも連携する。 ② 服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③ 教員が挨拶と正しい言葉遣いを率先して行う。 【成標】 ① 学年遅刻・欠席数の昨年度比減。 ② 毎朝の SHR で全クラスの身だしなみチェックをする。 ③ 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答で昨年度比増を目指す。 【3学年】 ① 遅刻・欠席数の減少 ② 身だしなみを整える ③ 挨拶ができる 【活標】 ① 遅刻・欠席生徒と対話し、家庭とも連携する。 ② 服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③ 教員が挨拶を率先垂範し、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 ④ 【成標】 ① 学年遅刻・欠席数の昨年度比減。 ② 毎朝の SHR に全クラスで身だしなみチェックを行う。 ③ 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答率90%以上。	②昨年度 30 日以上欠席した者 昨年度 13人 今年度 10人 生徒との対話だけでなく、家庭との連携も密に行い、学校に来れる環境を整えることができた。 ③荷物の置き忘れ・しまい忘れがゼロではなかった。しかし、忘れてしまう生徒はいつも同じであることから、個別に周知したり、家庭との連携を図りながら対応していく必要があるように感じた。 【2学年】 ①遅刻者数(遅刻率)4～12月分 令和5年度 933 人(3.4%) 令和6年度 844 人(3.6%) 令和7年度 504 人(2.7%) 遅刻率は昨年と比べ減少している。 ②毎朝 SHR での身だしなみチェックは継続できている。 来年度を見据えて、生徒の習慣化につなげたい。 ③今後アンケートを実施予定。 【3学年】 ①遅刻者数(遅刻率) 令和5年度 538 人(1.7%) 令和6年度 1,088 人(3.6%) 令和7年度 808 人(3.3%) 遅刻率は昨年と比べ減少している。目標達成。 ②毎朝 SHR での身だしなみチェックは継続できた。生徒たちも習慣となっていた。 ③「挨拶ができた」と回答した生徒は 90.7%であった。目標達成。	
--	---	---	--

	【生徒指導部】 ① 全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。 【活標】 遅刻指導を行い、生活リズムを正すきっかけをつくるとともに遅刻数増加のはどめとする。遅刻の累積数に応じて声かけ・指導を行い、生徒自身の現状把握につなげる。 【成標】 全学年の遅刻者率が各学期・年間で3%以下。 ※遅刻者率＝遅刻者数／(在籍者数×授業日数) ② アルバイト等、学校外の活動で生活習慣が乱れないよう、また手続き申請をきちんとできるように指導する。 【活標】 アルバイト許可については経済的な理由等、やむを得ない理由かどうか、また成績不振科目がないかどうか確認して手続きを行う。無断アルバイトがないよう、周知する。 【成標】 無断アルバイト件数5件以下。 【保健部】 良い習慣を身に付けるための指導、啓発を行う。 【活標】 朝食や睡眠など、基本的生活習慣の確立についての指導・啓発を行う。 【成標】 ・入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導:1回ずつ。 ・保健だよりの発行:年間 10 回以上、必要に応じて随時発行。 ・掲示物の作成:年間2回以上。 ・保健調査や健康診断結果による面談。 ・来室時における個人指導などの実施。	【生徒指導部】 ①遅刻者率は1学期 2.3%、2学期 3.2%、全体(1月末まで)4.1%で目標を達成できなかった。ほぼすべての月で昨年より遅刻者率が減っている、今の状態を保っていきたい。 ②今年度の無断アルバイトの指導件数は2件で目標は達成できた。あくまで発覚した件数であり、無断アルバイトをしている生徒は多いと予想される。 【保健部】 学期毎に注意喚起を呼びかけるなど意識向上に取り組んだ。 【達成】 ・指導・啓発→保護者に1回実施、生徒対象に6回実施 ・保健便り→11回発行 ・保健室前掲示→2回 ・個別面談・保健指導の実施	
重点④ 安全・安心の学校づくり	【1学年】 ① 家庭との連携 ② 早期のいじめ認知、対応 ③ 教員・生徒、家庭間で対話がしやすい雰囲気作り 【活標】 ① 学年通信の発行。学校から保護者、保護者から学校と両方向からの情報共有を大切にし、家庭との連携を強めていく。 ② いじめに対する教員のアンテナを高くし、日頃から生徒の変化に注意を払い早期発見を目指す。また、情報共有をこまめに行い早期対応に努めていく。 ③ 学年全体で生徒・家庭との対話を大切にし、大小関わらず、まずは話を聞く・する姿勢を持ち、良い信頼関係を構築していく。 【成標】 ① 連絡なしの欠席・遅刻、連日の欠席・遅刻、人間関係のトラブル、成績の不良など気になることがあれば家庭への連絡を実施。また、家庭での生徒の様子なども情報を共有する。 ② いじめの重大事案0件	【1学年】 ①日頃生徒の様子で気になることがあれば、学年・家庭と共有し、学校内外で見守れる体制が作れた。また、成績等に関しては、各定期考査前後や学期初め、学期末などで、必要に応じて個人面談や3者面談などを行い情報共有や今後の対応について話し合うことができた。 ②今年度、いじめの重大事案は1件。 生徒・保護者等との情報共有や面談を密に行い、大きなトラブルも招くことなく対応できた。 ③普段から「対話」を意識したことで、教員間での迅速な情報共有ができ、かつ対生徒・対保護者との大きなトラブルもなかった。	◎

③ 日常会話など普段からの生徒や保護者との対話の機会を作り、起こった問題に対しては早期対応・解決していく。 【2学年】 ① 家庭との連携 ② 清潔な学習環境 ③ 早期のいじめ認知、対応 【活標】 ① 学年通信の発行。少しでも気になる様子があれば家庭へ連絡をし、情報を共有する。 ② 教員が率先して整備を行い、放課後、教室の机上やロッカーに荷物が無いよう指導する。 ③ いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。 【成標】 ① 連絡なし欠席、人間関係、成績等、細目に保護者連絡を実施。 ② 毎日のフロアの清掃、放課後の教室整備を実施。 ③ いじめの重大事案 0 件 【3学年】 ① 家庭との連携 ② 清潔な学習環境 ③ 早期のいじめ認知、対応 【活標】 ① 学年通信の発行。少しでも気になる様子があれば家庭へ連絡をし、情報を共有する。 ② 教員が率先して整備を行い、放課後、教室の机上やロッカーに荷物が無いよう指導する。 ③ いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。 【成標】 ① 連絡なし欠席、人間関係、成績等、こまめに保護者連絡を実施。 ② 毎日の清掃、放課後の教室整備を実施。 ③ いじめの重大事態 0 件。 【教務総務部】 自他の人権を守る実践行動を身につけることを目的とした人権教育を実施する。 【活標】 生徒の実態把握、人権課題に合った人権LHRのテーマ設定をする。全学年で人権 LHR を 2 回、人権講演会を年 1 回実	【2学年】 ① 学年通信は 12 月末までに 7 回発行。生徒の学校での様子や学びを保護者に共有できた。担任は細目に電話連絡、保護者会を実施できた。 ② 毎朝、廊下、トイレの清掃を実施。教室は帰りの SHR 後、担任が整備することを習慣化し、教員が率先垂範し清潔な環境を維持できた。 ③ 学校生活アンケートを活用し、いじめにつながる事案を早期にキャッチ、丁寧なフォローを行ってきた。しかし、重大事案が 1 件発生した。 【3学年】 ① 学年通信は 9 号(最終号)まで発行予定。生徒の学校での様子や成績、進路に関する情報などをその都度保護者に共有できた。担任はこまめに電話連絡、保護者会を実施できた。 ② 毎朝、廊下・トイレの清掃を実施。教室、ロッカー上は放課後担任が整備することを習慣化し、教員が率先して清潔な環境を維持することに努めた。 ③ 日頃から生徒の様子に注意を払い、コミュニケーションを適切に行うことで、生徒の異変やトラブルの早期発見・早期対応ができるよう努め、教員間で情報共有することで丁寧にフォローできる体制を整えた。 いじめの重大事態 0 件。 【教務総務部】 ・生徒の実態や事象を踏まえて人権 LHR を計画、実施し、全学年で少なくとも 2 回の人権 LHR と「障がい者の人権」をテーマとした講演会を 1 回行った。	
---	---	--

施する。生徒の自主的な活動の充実。 【成標】 ①年度始め、年度末に生徒アンケートを実施。生徒の人権感覚、実践行動の向上をめざす。 ②教職員の知的理解・人権感覚の向上に努める。 【活標】 教職員研修を年2回以上実施する。校外研修への案内、人権だよりの発行。 【成標】 研修開催後の教職員アンケートによる意識調査を行い、教職員研修の内容の見直しを行う。 【生徒指導部】 交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。 【活標】 交通安全セミナーや講話を通して交通マナーの大切さや、事故防止について発信する。 【成標】 登下校時加害・自損事故件数5件以下。 ② いじめのない生徒関係の構築を行う。 【成標】 いじめ防止講話や学校生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 【成標】 年3回、学校生活アンケートを実施し、活用する。 【保健部】 生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。 【成標】 1年生:養護教諭と保健体育科の連携による性教育や外部講師を活用したデートDVについて指導する。 2年生:健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育を行う。 3年生:専門性の高い外部講師を招き、妊娠・出産についての性教育を行う。 【成標】 各予防教育実施後の生徒アンケート満足度:各 85%以上。 ②感染症に対する予防的措置を講じる。 【活標】 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の設置と活用を進める。教室の換気を推進する。 【成標】 各フロアに設置、補充。保健講話やたよりにて意識を啓発する。 ③ 安全・安心を確保するため、非常時の対応力の強化を	①生徒アンケートでは知識や実践行動の向上が見られた一方、知識と行動の乖離が課題として明らかになった。一方で、教職員の人権感覚の高まり、今まで見過ごされていた行動を適切に把握できるようになったことも一因と考えられる。 ②教職員研修会では、教職員同士の対話を通して人権感覚を高める機会となった。複数名の教職員が校外研修に参加、「人権だよりの発行し、生徒、保護者、教員の日常で見過ごされていた言動の気づきを促すことに努めた。 【生徒指導部】 ①交通安全セミナーや自動車運転マナーセミナー等、外部講師による講話を実施した。学校までの道中での交通マナー改善につなげた。登下校時事故件数は4件で目標を達成できた。 ②学校生活アンケートは、学期毎に年3回実施した。4月の学年集会時にいじめ防止についての講話をした。4月・11月にピンクシャツ運動を生徒会役員を中心に有志の生徒92名とともに実施し、意識の向上に努めた。 【保健部】 ① 達成 1年:性教育を9月に各クラスにて実施、満足度86%。デートDVの講話を5月に実施、満足度95%。 2年:個別面談を実施した。 3年:性教育の講話を12月に実施、満足度91%。 ② 達成 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の活用、HR教室や特別教室のCO₂モニターを活用した換気を呼びかけた。 ③1年生の保健の授業内で教職員にも参加を促し、実施した。AED講習未受講者の常勤教職員の講習参加:100%
--	---

	図る。 【活標】 1年生と全教職員に AED 講習を実施し、適正に取り扱うことができる。 【成標】 講習への参加:80%以上		
改善課題			
1 基礎学力の定着と伸長 基礎基本的な学習の定着が十分でない生徒が多いことから、学力テストを実施した結果、目標の達成が難しい状況がつついている。継続的に学力の定着と伸長への取組を継続して、進学や就職につなげていく。 2 スマートフォンの取扱 スマホなど常に画面を見ている状態がみられる。SNS等の発信から生徒間トラブルとなったり、いじめにつながるが見られる。また、情報が過多となっていることから高校生としてふさわしくない行動などにつながったり、なりすましや闇バイトなどの勧誘から事件にまきこまれる危険性がある。学校生活や社会生活のために適切な利用方法を啓発していくことがさらに必要と考える。 3 いじめ認知 学校生活アンケートや生徒からの相談から、いじめ認知件数が増加している。相手の心情を考えずに発言したり、SNSでの書き込み等でのトラブルなどが多くみられることから、人権教育やSNS講演会等との関連を深めて、良好な人間関係を構築できるようにしていく必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 円滑で戦略的な組織運営	【学校運営】 教育課題に対応するカリキュラムマネジメントを推進する。 ・「基礎力診断テスト」を中核に据えた学力定着の取組が奏功しており、「みらい」・LHR 等によるキャリア教育の充実により、生徒の進路意識の向上が図られている。「コミュニケーション授業」も含め、これら本校の特色あるフレームを継承・深化させ、学校のさらなる活性化につなげていく。 また、各委員会の活動を「目指す学校像」の実現に向けて収斂させることで、本校の教育課題の解決を図る。 【活標】 ・「主任会議」：毎週1回、「企画委員会」：毎月1回開催 ・個別の課題に対しては、「学力向上委員会」「キャリア教育委員会」「ICT 委員会」等を随時開催、適切に対応 【成標】 ・中長期的な本校の教育活動の方向性についての職員間の共有と、喫緊の課題の効果的な解決	【学校運営】 ・「主任会議」は定期的に必要に応じ開催し、各部署間での情報共有や学校の課題に即時対応し、学校運営につなげることができた。今年度は特に、生徒の自己肯定感を高め、地域とつながる取組や業務の効率化・精選についての協議を重ねた。(1/30 時点 14 回時実施) ・「企画委員会」は、ほぼ毎月1回開催し、予定された書く活動の円滑な遂行に寄与した。 ・各委員会の開催については、必要に応じて開催し、課題解決に即応した。	
重点② 信頼の確保と指導力の向上	【学校運営】 「学校信頼向上委員会」の主導による研修、コンプライアンス・セルフチェック、管理職による面談、人権研修等の実施により、信頼の確保を図る。 【活標】 ① それぞれの研修：年1回実施 ② セルフチェック：年7回実施 ③ 「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組 【成標】 ① 体罰、セクハラ等不祥事の根絶 ② 学力の定着と授業力向上の重点化を図る。 落ち着いた様子を見せている生徒の状況をふまえて、特に授業力の向上について、重点化して取り組む。 【活標】 管理職による授業見学：年1回以上実施 【成標】 基礎学力の確実な定着に向けた学習・指導方法の開発及び PDCA サイクルの構築	【学校運営】 「学校信頼向上委員会」が主導し、研修会については、電話対応、盗撮防止のための事例検討、ハラスメント動画(合計3回)を実施した。個人情報 の適正管理、児童生徒性暴力・盗撮行為に関するセルフチェックについては合計2回実施した。(1/30 時点)また、職員会議等で教職員のコンプライアンス意識の醸成のため、服務規律等の周知徹底に努めた。 全学年生徒に対し、「体罰アンケート」(1, 3学期)、「わいせつ・セクハラアンケート」(2学期)に実施した。 管理職による授業見学は、1・2学期にそれぞれ1回ずつ実施し、授業者に助言した。また、人権にかかる全体研修は、全体研修を3	◎

	【教務総務部】 教員の授業力向上を図る。 【活標】 教員の授業力向上を目的とした授業公開を年2回、授業研究(相互授業見学)を年1回以上実施する。 【成標】 ① 一人当たり1回以上の授業見学の実施:90%以上。 ② 教員の ICT 活用力の向上を図る。 【活標】 教員の ICT 活用力向上を目的とした研修会を実施する。 【成標】 授業支援ソフト「WinBird」を活用するための教員研修を1回以上実施する。	回(人権 LHR 事前研修会、部落問題、学校における人権侵害)実施した。 個人面談の機会を活用し、管理職からの声かけも実施した。 【教務総務部】 ①5月と11月に授業公開を行い、在籍生徒の保護者、中学校の教員、中3生の保護者にも来校していただいた。また、授業公開週間を中心に教員に授業見学を促した。 1回以上の授業見学の実施 88,5%⇒未達成 ②ICT 活用力向上を目的とした研修会を実施した。着任者・非常勤講師へ向けた授業支援ソフト「WinBird」の研修会では、「WinBird」を活用することにより、生徒の状況把握や複数の生徒の考え方等の比較を行う方法を普及した。また、ICT 活用の方法や事例等を職員へ配信し、授業での活用力の向上に加え、業務効率の向上を図った。	
--	--	--	--

重点③ 開かれた学校づくりの推進	【学校運営】 ① 家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図る。 【活標】学校実態調査アンケート:年 1 回実施 【成標】本校の諸取組への肯定的評価 【活標】HP、きずなネット、Google Classroom、報道機関等を活用した効果的な情報発信 【成標】必要な情報発信:100% 【活標】学校行事(体育祭・文化祭等)の実施前の回覧板への情報発信:年2回以上 【成標】発信率:100% ② 学校関係者評価委員会、PTA 役員会、生徒会等の改善提案を生かした学校づくりを行う。 【活標】前年度の学校関係者評価委員等から提出された改善提案に関連する改善事例:2件以上 【成標】改善提案を次年度の教育活動に効果的に反映 ③ 学校運営費の適正かつ効率的な運用に努める。 【活標】各分掌・教科の要求等に基づき、学校運営費を適正に配分し、効率的な運用に努める。 【成標】教職員アンケート:満足度 90%以上 ④ 快適かつ安全・安心な教育環境の充実に取り組む。 【活標】学校施設・設備整備・点検を常に行うとともに、予算を確保して必要な整備・修繕を行うことにより、教育環境の充実に努める。 【成標】教職員アンケート:満足度 90%以上	【学校運営】 ① 7月に実施した「学校実態調査アンケート」については、集計・分析結果を12月 PTA発行の「桑北だより」で報告した。学校HPについては、学校行事、探究活動、部活動等様々な活動を発信できた。また、発信内容により、きずなネットやGoogle Classroom等を選択しなら、適時必要な情報を発信した。 ② 規範意識の醸成については、社会規範や人権の観点から生徒への呼びかけや指導を行った。 地域との連携については、地域の方に体育祭やHUGセミナーに参加していただいたり、地域の夏祭りの参加をさせていただいたりし交流を図った。 ③ 学校運営費の適正かつ効率的な運用 ・各分掌・教科の要求に基づいて運用を行った。 ・既存予算では対応できないものは、県教育委員会に緊急要望を行い、法面除草や職員室ホワイトボード貼替修繕等を行った。 ④ 快適かつ安全・安心な教育環境の充実 ・北高坂擁壁棟災害復旧工事や特別教室棟外壁改修工事を行った。 ・合併浄化槽破砕機取替工事や防火扉取替工事など、老朽化している施設の改修を行った。 ・昨年度に引き続き、校内各所の照明を LED 化した。	
------------------------------------	---	--	--

重点④ 働き方改革の実効性の向上	【学校運営】 総勤務時間の縮減を進めるため、時間外労働時間の上限を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。 【活標】 ① 定時退校日の定時に退校できた教職員の割合：80%以上 ② 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合：100% ③ 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合：90%以上 ④ スクール・サポート・スタッフ、支援員の有効的な活用。 【成標】 〈時間外労働時間〉 ① 年 360 時間を超える教職員数：0人 ② 月 45 時間を超える教職員の延べ人数：0人 ③ 一人あたりの月平均時間外在校等時間：15 時間以下 〈休暇取得〉 一人あたりの年間休暇取得日数：前年度比 1 日増加	【学校運営】 (数値は全て1月末現在) 〈総勤務時間の縮減〉 ① 定時退校日の定時に退校できた職員の割合： R7:88.6%(R6:64.6%) ② 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合： R7:100%(R6:100%) ③ 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合： R7:82.3%(R6:78.8%) ④ スクール・サポート・スタッフ、支援員の配置により、教員の業務の負担軽減につながった。 〈時間外労働時間〉 ① 年 360 時間を超える教職員数：5人(R6:9人) ② 月 45 時間を超える教職員の延べ人数：31人(R6:50人) ③ 一人あたりの月平均時間外在校等時間：20.2 時間(R6:24.8時間) 一人あたりの年間休暇取得日数：10.6 日(R6:14.5)	※
改善課題			
1 時間外労働時間 時間外労働時間の縮減については、設定した成果指標を3つとも全て達成することができなかった。教職員の定数が減る中で業務分担の在り方や業務量を見直す等、引き続き働き方改革の取組をすすめていく。 2 学校運営や組織の見直し クラス数の減少に伴い教員定数が削減されていくことから、これまでの業務のあり方や学校運営が難しくなっている。業務内容や取組内容を見直し、必要に応じて削減していくことがひつようとなる。			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	1 教員研修の取組 授業改善に向けた職員研修を行い、生徒が授業において理解できるよう取り組んでいることは続けてもらいたい。教員研修に大学教員(四日市大学)を活用することもできる。 2 フレキシブル高校への期待 中学校では、不登校や教室に入れない生徒が一定数いる中で、令和9年度からはじまるフレキシブル高校の設置が生徒の選択肢のひとつとなることから期待している。 3 自主的な地域活動の参加 生徒が積極的に地域活動に参加することが、学習に良い影響がでていることが、桑名北から進学した学生の様子からもうかがえる。 4 地域との連携 昨年に比べて登下校の様子をみていると、生徒は落ち着いていると感じる。地域との交流を深め、活気街づくりに貢献してもらいたい。
--------------------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	1 外部人材や機関との連携 多様な環境のもとで育ち、様々な支援が必要な生徒の入学が増えてきたことから、引き続き、校内で情報共有や研修をすすめて、教職員の力量を高め、生徒を支援していくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、高校生活スペシャルマネージャー、外国人生徒支援専門員、児童相談所等外部人材や機関との連携を深めていく必要がある。 2 指導方法の見直し 学校生活において、規範意識が低く、生徒指導に係る特別指導を要する生徒が多くなっている。また、中途退学者や転学者が増加していることから保護者と連携を図り、前向きな学校生活を送ることができるよう、指導の改善に努める。
学校運営について の改善策	1 学校運営や組織の見直し クラス数の減少に伴い教員定数が削減されていくことから、これまでの業務のあり方や学校運営が難しくなっている。業務分担の在り方や業務量を見直す等、引き続き働き方改革の取組をすすめていく。